

# 令和2年度 研究報告

城南

東京都立城南特別支援学校

# 01 研究の背景

研究テーマ

## 言語活動を充実させる授業デザイン

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導内容・方法の改善～

### 新学習指導要領より

各学校においては、児童又は生徒の障害の状態及び発達の段階や特性等を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していく。

### 東京都特別支援教育推進計画(第二期)・第一次実施計画より

「(1)障害の種類と程度に応じた指導・支援の充実」として「言語活動及び読書活動の充実」。

▶特別支援学校においても、児童・生徒の言語能力の育成を目指した授業改善が求められている。

## 02 本校の研究課題

### 言語面に関わる 児童・生徒の実態把握

- ・ 肢体不自由や重度・重複障害のある児童・生徒の言語能力について、教員によって捉え方に差がある。
- ・ 児童・生徒に適した発達検査方法が分からない。

### 言語活動に関する 教員の知識・技能の習得

- ・ 知的障害のある児童・生徒の言語発達に関する研修機会の不足。
- ・ 言語発達に関する発達検査や、検査結果の指導への生かし方に関する研修機会の不足。

### 言語活動を充実させる 指導内容や単元計画

- ・ 授業の客観的評価や改善策を検証するための、共通の規準がない。
- ・ 指導内容や単元計画を検証する会議時間の不足。

## 03 研究1年目(令和元年度)研究成果

### 自立活動を主とする 教育課程 (第1・2分科会)

- ・ 重度重複障害の児童・生徒における「言語活動」「言語能力についての評価の系統性」について共通認識した。
- ・ 教員のアンケートをもとにアセスメント表を作成し、これまで主観的に評価してきた観点をまとめ、児童・生徒の実態把握の視点を広げた。

### 知的障害を併せ有する 教育課程 (第3分科会)

- ・ 言語・コミュニケーションアセスメント(LCスケール)について、本校の児童・生徒にも適用が可能であることを確認した。
- ・ 授業観察のチェックリスト「コミュニケーション環境・プログラム評価」を開発し、授業環境を適切に評価し、即時改善策を検討できるようになった。

### 準ずる教育課程 (第4分科会)

- ・ 発問を工夫することで、生徒自身が考え、生徒自身の言葉で説明する場面を設定し、「主体的・対話的で深い学び」につながることを共通認識した。
- ・ 教科指導を行う上での難しさや悩みを共有した。

## 04 研究2年目(令和2年度)研究計画

### 自立活動を主とする 教育課程 (第1・2分科会)

- ・ 言語発達に関するアセスメント、実態把握方法の検証
- ・ 実態に基づく単元、指導内容の検討
- ・ 助言者 大伴 潔先生(学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター教授)

### 知的障害を併せ有する 教育課程 (第3分科会)

- ・ 言語発達アセスメントの実施
- ・ アセスメント結果の読み取りと、指導への生かし方の理解促進
- ・ 実態に基づく単元、指導内容の検証
- ・ 助言者 遠藤 重典先生(言語聴覚士)

### 準ずる教育課程 (第4分科会)

- ・ 言語発達アセスメント結果の共有方法の検証
- ・ 実態に基づく、各教科の言語活動における指導内容の検証
- ・ 助言者 木村 泰子先生(東京都教職員研修センター研修部)

# 05 学習指導案の形式の工夫（「本時の展開」部分）

全体／小集団／個別で、  
学習時の形態を示す。

授業に関わる教職員の動き(チームアプローチ)を明確に示す。  
※H28～30年度の研究より継続

教材の工夫や授業の流れ、支援方法などについて、教員の意図や根拠を伝わりやすくする。

時間配分	学習形態	◎学習内容 ・学習活動	○授業者、△他教員、□学校介護職員の動き 「発問や補助発問」 ●外部専門家の助言 ・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 2分	全体	◎始まりの歌 ・始まりの歌を聞く	○テーマソングを歌い、授業を想起させる。 △□児童の状態に応じて、視線を向けるよう言葉で促したり、身体介助をしたりする。 ●児童がMTに集中しやすいよう机の上に何も置かない。	ウー① (発声・表情の観察)
展開 38分	個別	◎制作活動 ・紙の感触、音を味わう	「紙をびりびりしよう」 △□キーワードを統一し、児童が紙を引っ張って割く動きに合わせて「びりびり」と言葉掛けする。 ●児童の腕を一番伸ばした位置に、教材を提示する。 ・誤食の可能性のある児童は、正面から確実に口元を見て活動する。	アー① (視線・身体の動きの観察) イー② (発声・表情の変化の観察)

➡ 指導に関わる教職員全員の、情報共有のツールとして有効活用している。